

教育目標

自ら考え主体的に学ぶ生徒
明るく思いやりのある生徒
健康でよく働く生徒

学校だより「岩瀬ヶ丘」



第 7 号

平成30年 7月18日発行

須賀川市立第二中学校

☎75-2910

発行責任者：校長 高崎則行

県中水泳大会で粘り強い泳ぎ 6種目決勝へ、4種目で県大会進出

県中地区水泳大会は、6月20日（水）、21日（木）の2日間、郡山しんきん開成山プールで開催されました。本校からは、8選手がのべ13種目に出場し、次のような成績を収めました。

男子

400m自由形 第3位 橋本 卓③☆
1500m自由形 第2位 橋本 卓③☆



200m背泳ぎ 第7位 斑目 穂高③
200mバタフライ 第8位 矢内 凜一①

女子

100m平泳ぎ 第4位 有我 由宇②☆
200m平泳ぎ 第3位 有我 由宇②☆



このように、8選手中4人が決勝に進みました。予選から非常に粘り強い泳ぎをしたという印象を受けました。橋本くんと有我さんは、昨年度に引き続いての県大会出場になりますが、昨年度よりも順位を上げての出場です。また、残りの4選手は予選敗退となりましたが、1、2年生ですから頑張って来年度につなげてほしいと期待しています。

陸上の県大会は・・・

陸上競技の県大会は、7月4日（水）～6日（金）の3日間、いわき陸上競技場で開催され、本校からは支部大会を勝ち抜いた以下の選手が参加しました。

男子1年100m 角田 煌翔①
女子砲丸投げ 村上 晶③
女子共通100mH 菊地 美衣③
男子1、2年4×100mR 橋本 祐亮② 渡邊 勝人② 庄島 唯人②
熊田 凌那① 角田 煌翔① 車田 彪流①



角田さん、村上さん、菊地さんの3人は、雨天による悪コンディションの中よく健闘しましたが、自己記録に及ばず、決勝進出を果たすことはできませんでした。

私たちは、新人陸上大会を新たな出場機会に定め、子どもたちがこの無念さと憤りを次の機会へのパワーに昇華できるよう、生徒たちとともに練習に邁進しているところですので、ご理解をお願いします。

SOSの出し方を学ぶ 「あなたの声かけがクラスを変える」



7月3日（火）、今ニーズの高くなっている「SOSの出し方に関する教育」の一環として、全国を駆け回って講演されている家庭教育カウンセラーの内田玲子さんをお迎えして、教育講演会を行いました。

私なりに要点を3つに整理して紹介します。

- 1 声をかけられたら、一度は受け入れるという態度を大切にする。その上で、嫌なことは嫌と言う。
- 2 最初に浮かんだ答えが大事。「相手が言った（やった）から～」は後付けの答え。自分の心に負けているから出てくることば。
- 3 声をかけないとSOSが出ない、声をかけないとSOSがわからない。相手を尊重し、声をかけることからクラスが変わる。

内田さんは、親と子ども、教師と生徒、生徒同士の会話で、相手をはじきとばすような言葉を発していないか、相手の思いを自分で決めていないかと注意を促しています。

誰でも、どこでも、いつでもSOSを出せるようになるには、まずそういう人間関係が大事なのだと考えます。

授業参観に大勢の参加 ありがとうございました



7月11日（水）の授業参観には、大勢の保護者の皆さんにご参加いただきました。どの学級でも、生徒同士がつながって生き生きと学習に取り組んでいる様子をご覧いただけたのではないかと思います。また、その後の学年懇談会にも多数ご参加いただき、ありがとうございました。

今回、各学年の懇談会でお話したのは、夏休みを将来の「志」をふくらませる機会にすることです。例えば、3年生は、将来どのような進路に進むかとか、高校生活で打ち込みたいことをしっかり心に定めて高校を選択し、そのために夏休みを有意義に過ごすということ。このような進路に進むために高校生活でこのことに打ち込むというように一つに重なればさらにいいですね。

子どもたちは、世の中に目を開き、多くの大人とふれあうことで「志」をふくらませていきます。夏休みは、そういう時間でもあるのです。

ことばの力② いわかって遠くに見える友の家



平成29年度須賀川市俳句ポスト年間入選句に選ばれた、1年 加藤雄真くんの作品です。

稲刈りをしたその田んぼの遠く向こうに友の家が見えたというのです。稲を刈ったためにそれまでは見えなかった友だちの家が見えるという気づき・発見が作品の魅力となっています。稲の高さ分の違いで視界が一変したということから、そこが平坦な土地であることがわかります。また、「遠くに見える」ということから奥行きがある、広大な田園の風景が想像できます。刈田の向こうに見えた家、それが「友だちの家だ」というのもいいですね。体言止めが利いています。たぶんその友だちの家には遊びに行ったことがあるのでしょう。直線距離で見てもあんなに遠くだったのか、という思いもあるのかもしれません。近所の友だちだけでなく、距離のへだたった家の子とも友だちになったのは、心と体の成長の証しです。小学校高学年、または中学生の生活をよく反映しています。